



がんばる!長尾!

校長 隼田 靖宏

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

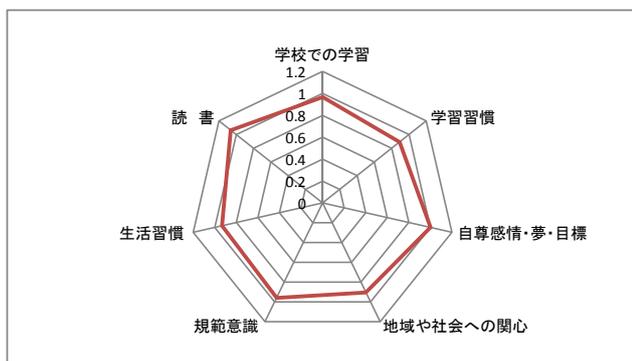
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	・全体的には全国平均正答率を上回っていた。言語知識理解は基礎ができていた。 ・読む力を問う問題にやや課題がある。	上回っている
国語B	・全体的には全国平均正答率を上回っていた。 ・書く力を問う問題に課題があり、書くことを習慣化する必要がある。	上回っている
算数A	・全体的に全国平均正答率を上回っていた。	上回っている
算数B	・全体的に全国平均正答率を上回っていた。 ・理由を記述をする問題に課題があり、習慣化する必要がある。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ等の接触時間は、4時間以上の長時間の利用の割合が依然と高い。 ・「携帯・スマホ10時OFF」の取組により、1時間以上接触している児童の割合は減少した。 ・家庭学習では、しっかり取り組んでいるものの、自分で計画を立てて、勉強している割合がやや低い。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・子どもの主体的・対話的な学びが図られるように、話し合い活動や書く活動の充実を及び、授業の改善を目指す。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・早寝・早起き・朝ごはん、テレビを見る時間等について家庭と学校と連携しながら、子どもが元気な毎日が送れるようにしていく。